

第3学年〇組 社会科学学習指導案

令和〇年〇月〇日（曜）〇校時
指導教諭 〇 〇 〇 〇 印
指導者 〇 〇 〇 〇 印

1 単元

松江市の様子や人々のくらしの移り変わりを調べよう

2 目標

松江市の様子やくらしの移り変わりについて、交通や公共施設、土地利用、市域や人口、生活の道具などの時期による違いに着目して、聞き取り調査をしたり地図などの資料で調べたりして年表にまとめ、市や人々の生活の様子を捉え、それらの変化を考え、表現することを通して、市や人々の生活の様子は時間の経過に伴って移り変わってきたことを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決し、学習したことをもとに、市民の一人としてこれからの松江市のまちづくりについて考えようとする態度を養う。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①交通や公共施設，土地利用，市域や人口，人々のくらしや生活の道具などの時期による違いについて，聞き取り調査をしたり地図などの資料で調べたりして，理解している。 ②聞き取り調査をしたり，地図などの資料で調べたりしたことを表や文にまとめ，市や人々のくらしの様子は，時間の経過に伴い，移り変わってきたことを理解している。	①交通や公共施設，土地利用，市域や人口，人々のくらしや生活の道具などの時期による違いに着目して，問いを見だし，市や人々の生活の様子の移り変わりについて考え表現している。 ②交通網が整備されたこと，公共施設ができたこと，市域や人口が変化してきたこと，土地利用の様子が変わったことなどを相互に関連付けたり，市の様子や生活の道具，人々のくらしの変化と人々の思いや願いを関連付けたり，市の様子の変化と人々のくらしの様子の変化を結びつけたりして，市全体や人々のくらしの変化の傾向を考え，適切に表現している。	①市の様子やくらしの移り変わりについて予想や学習計画を立てたり，学習を振り返ったりして，学習問題を追究し，解決しようとしている。 ②学習したことを基に，これからの松江市のまちづくりについて，市民の一人という自覚をもちながら考えようとしている。

4 基盤

(1) 本単元は，学習指導要領の内容(4)ア(ア)(イ)，イ(ア)を受けて設定している。

松江市は，1889年(明治22年)に市制が施行されたことにより発足した。以来，市町村合併による市域の拡大などを経て，2011年(平成23年)に現在の形となった。人口は発足当初から増加を続け，現在では約20万人が住む中核市となっている。古くから水都として水運が発展してきたが，近世以降は橋や道路，鉄道線路やバスの路線の整備が進められ，交通が発展してきた。また，市の発足以来，学校，図書館，福祉センター，体育館，観光施設などの公共施設も相次いで建設され，市民や観光客に親しまれている。交通網の整備や公共施設の建設などにより，土地利用にも変化が起こり，人々の生活も大きく変わってきた。

本単元では，交通や公共施設，土地利用，市域や人口，生活の道具などの時期による違いに着目しながら，市や人々のくらしの様子は，くらしをよりよくしたいという昔の人々の思いや願いをもとにして，時代とともに移り変わってきたことを捉え，その上で松江市民の一人として自分たちのくらしをよりよくしようと，これからの松江市のまちのあり方を考える子どもの姿の育成を目指している。目指す姿に向けて，松江市営バスの路線を手がかりとして，その変遷を追いながら学習を展開していく。

松江市営バスは，1929年(昭和4年)，市内の民営バス2社の営業権及び車両を買収し，松江市営乗合自動車として，7つの路線で営業を開始した。以降，市内の様子や人々くらしの移り変わりによって利用者のニーズが多様化し，その思いや願いに応える形で路線を変化させてきた。そして令和3年4月現在，10路線114系統までを広げ，市民の大切な交通手段の一つとなっている。

市営バスはこれまで，新しい橋や道路の開通による路線の新設，福祉センターなどの公共施設や住宅団地の建設などによるバスの乗り入れ，八束町線や医療機関を利用する人のための病院線の開設など，様々な事業に取り組み，路線を広げてきた。このように，路線の変化は交通網の発達，公共施設の建設，土地

利用の変化、市域や人口の変化、人々の暮らしと密接に関わっている。よって、路線の変遷を追いながら学習問題を追究していくことで「交通」「公共施設」「土地利用」「市域や人口の変化」「人々の暮らし」など様々な視点を関連付けながら、市や人々の暮らしの移り変わりについて捉えることができるであろう。このように、松江市営バスの路線を教材として扱うことは、子どもたちが市や人々の暮らしの様子の変り変わりを理解したり考えたりする上で有効であると考えます。

- (2) 本学級は、学習活動に対して前向きに取り組むことができる子どもが多い。年度当初は、自分の考えや思いを主張したい気持ちが強く、考えの幅を狭めてしまう子どももいたが、学習を重ねていく中で、徐々に友達の考えを受け止め、そこからさらに考えを広げたり深めたりすることができるようになってきているところである。社会科の学習についても、興味や関心をもって取り組む子どもが多く、ゲストティーチャーの方から話を聞く学習では、熱心にメモをとったり、質問をしたりする姿が見られた。

1学期に取り組んだ「松江市の様子」の学習についても意欲的に取り組む子どもが多く、松江市の土地の高さや広がり、土地利用、交通、公共施設、古くから残る建物などの視点で市の特徴について進んで調べ、全体での対話によって学びを深めてきた。学習したことをまとめる場面では、「松江市の様子を紹介しよう」という活動に取り組み、それぞれの視点を関連付けたり総合したりしながら松江市の特徴について地図を用いながら短い文章でまとめることができた。しかし、子どもの記述の中には「土地の低いところは市の中心にかたまっている」「松江市は森林が多い」などという一つの視点からのみ特徴を捉えたにとどまるものも見られた。本単元では、全ての子どもたちが様々な視点を関連付けながら、市や人々の暮らしの様子の変り変わりについて考え、表現できるようにしていきたい。

- (3) 本単元では「松江市営バスの路線の移り変わり」を学習の軸とし、「なぜ市営バスの路線は増えていったのだろうか」という問いを子どもたちとともにつくり上げ、路線の変遷と移り変わっていった理由について追究していく。その後、路線が変わっていったそれぞれの時代の人々の暮らしの様子にも目を向け「人々の暮らしはどのように変わったのだろうか」という問いをつくり、暮らしの移り変わりについて追究していく。学習の軸を設定し、単元を貫く2つの問いに向かって学習を進めていくことにより、市の様子（交通や公共施設、土地利用、人口など）や人々の暮らしの様子の変化をぶつ切りの単なる知識として捉えるだけでなく、それぞれを関連付けたり結びつけたりしながら捉えることができるようになる。

第一次では、松江市営バスの路線の変化から松江市の様子の変り変わりについて考え、単元の学習問題をつくる。路線図の時期による違いを目の当たりにした子どもたちは、移り変わっていった理由について、様々なことを予想したり疑問を抱いたりして、「知りたい」「明らかにしたい」と感じるであろう。子どもたちの追究意欲から学習問題をつくり、予想したことや疑問から各時の問いを設定していく。

第二次では、市様の時期による違いとバスの路線との関係性について考え、様々な視点を相互に関連付けたり、当時の人々の思いや願いに気付き、市様の变化と関連付けたりしながら、市全体の様子の移り変わりについて捉えることができるようにする。その後、市営バスの路線が変化した頃の人々の暮らしに目を向け、人々の暮らしの移り変わりについて捉えることができるようにする。人々の暮らしや生活で使う道具の変化を調べながら、当時の人々の思いや願いにも気づけるようにしていきたい。

第三次では、市営バスの路線の変化、松江市の様子の変化、人々の暮らしの変化の理由を考えていく中で、変化の根底には当時の人々の思いや願いがあることに気付き、自らもくらしやまちづくりに思いや願いをもつことの大切さについて考えられるようにする。子どもたちが一人の市民として、これからのよりよいまちづくりについて自分なりに考える姿を期待したい。

本時は、学習問題を追究する場面の第6時間目である。「松江市の交通の様子はどのように変わったのだろう。」という問いの解決に向け、過去の松江大橋や交通の様子がわかる写真や過去と現在の大橋川周辺の地図から交通の様子の移り変わりについて調べていく。資料を比較したり関連付けたりしながら年表にまとめたり話し合ったりする際には、交通の様子の移り変わりを捉えながら、他の様々な視点にも気付けるように、言葉掛けや問い返しをしていく。子どもたちが一つの視点からではなく、複数の視点に関連し合って松江市の様子が移り変わってきたことを捉えることができるようにしていきたい。

5 展開と評価計画（全13時間）

次	時	◎ねらい ○学習内容	◇評価規準 ◆評価方法
第一次	1	◎3つの路線図の増えているところに着目して、松江市の様子	◇思・判・表①
	2	の移り変わりについて問いを見出す。 ○3つの市営バスの路線図（昭和4年、昭和32年、現在）を見比べ、路線が増えているところについて話し合い、市様の移り変わりについて学習問題をつくり、学習計画を立てる。 ・路線が増えているところを調べる。 ・路線が増えた理由を考え、それをもとに学習問題をつくる。 ・これから調べていくことを整理し、学習計画を立てる。	◆発言、ワークシート、ノート ◇主① ◆発言、ワークシート、ノート
		学習問題Ⅰ なぜ市営バスの路線が、増えていったのだろう。	

第二次	3	◎松江市の土地の使われ方の移り変わりについて捉える。 ○松江市の土地利用の時期による違いについて調べる。 ・昔と今の地図や写真などの資料を見比べ、違いを調べる。 ・土地利用の様子の変化や市営バスの路線との関係について、年表にまとめる。	◇知・技① ◆発言、年表、ノート
	4	◎松江市の公共施設の移り変わりについて捉える。 ○松江市の公共施設の時期による違いについて調べる。 ・昔と今の地図や写真などの資料を見比べ、違いを調べる。 ・公共施設の変化や市営バスの路線との関係について、年表にまとめる。	◇知・技① ◆発言、年表、ノート
	5	◎松江市の人口や市域の移り変わりについて捉える。 ○松江市の人口や市域の時期による違いについて調べる。 ・昔と今の地図やグラフなどの資料を見比べ、違いを調べる。 ・人口や市域の変化や市営バスの路線との関係について、年表にまとめる。	◇知・技① ◆発言、年表、ノート
	6 本 時	◎松江市の交通の移り変わりについて捉える。 ○松江市の交通の時期による違いについて調べる。 ・昔と今の地図や写真などの資料を見比べ、違いを調べる。 ・交通の変化や市営バスの路線との関係について、年表にまとめる。	◇知・技① ◆発言、年表、ノート
	7	◎松江市の様子が変わった理由を考える。 ○松江市の様子と市営バスの路線、人々の思いや願いを関連付けながら、松江市の様子が変わった理由について話し合う。 ・これまで作成した年表をもとに、松江市が変わった理由を考える。	◇思・判・表② ◆発言、ワークシート、ノート
	8	◎昔の人々の暮らしと今の暮らしの様子の違いに着目し、暮らしの様子の移り変わりについて問いを見出す。 ○暮らしの様子がわかる写真（昭和初期、昭和30年代、現在）を見比べ、それぞれの違いについて話し合い、暮らしの様子の移り変わりについて学習問題をつくり、学習計画を立てる。 ・暮らしの様子の違いについての気づきをもとに、学習問題をつくる。 ・これから調べていくことを整理し、学習計画を立てる。	◇思・判・表① ◆発言、ワークシート、ノート ◇主① ◆発言、ワークシート、ノート
	学習問題Ⅱ 人々の暮らしはどのように変わったのだろう。		
	9 10	◎生活で使う道具や人々の暮らしの移り変わりについて捉える。 ○昔と今の道具や人々の暮らしの様子について調べる。 ・図書資料や聞き取り活動から昔と今の道具や暮らしの様子について調べ、それらの変化について年表にまとめる。	◇知・技① ◆発言、年表、ノート
第三次	11	◎昔の人々が生活で使う道具や暮らしを変えてきた理由を考える。 ○生活の道具や暮らしの変化と人々の思いや願いを関連付けながら、人々の暮らしの様子の変化について話し合う。 ・これまでに作成した年表をもとに、昔の人々が生活で使う道具や暮らしを変えてきた理由を考える。	◇思・判・表② ◆発言、ワークシート、ノート
	12	◎松江市や人々の暮らしの様子が変わってきた理由を考え、これまでの学習についてまとめる。 ○市営バスの路線や市、人々の暮らしの様子が変わった理由についてまとめ、話し合う。 ・これまでに作成した年表をもとに、松江市や人々の暮らしの様子が変わってきた理由を考える。	◇知・技② ◆発言、ワークシート、ノート
第四次	13	◎松江市のこれからのまちづくりについて考える。 ○未来の松江市はどのようなことを大切にしていけばよいのかを考え、話し合う。 ・これまでの学習から、今後松江市や人々の暮らしがどのように変わっていくのか予想し、これからの松江市のまちづくりについて考える。	◇主② ◆発言、ワークシート、ノート

6 本時の学習

(1) 本時の目標

松江市の交通の様子の変化の時期による違いに着目して、写真や図を比較したり関連付けたりしながら市の様子の変化を捉えることができる。(知識及び技能)

(2) 展 開

学習場面と子どもの取組	教師の支援と評価
1. 前時までの学習を振り返り、めあてを確認する。 - 松江市の中心部のまわりでは建物が増えていったよ。 - 町がにぎやかになって、公共施設もいろいろなところにあるようになったよ。 - 昔は松江市も小さくてバスの路線も少なかったけど、市が大きくなって人口も増えてきたよ。	土地利用や公共施設、市域や人口の移り変わりや市営バスの路線の変化との関係をふり振り返りながら、本時の学習内容への意識を高める。
松江市の交通の様子は、どのように変わっていったのだろう。	
2. 昔の松江大橋の写真を見て、交通の様子について気付いたことを話し合う。 - バスや人力車が走っているよ。今みたいに自動車は走っていないよ。 - 歩いている人や自転車に乗っている人が多いな。 - 道の幅がせまくて車がすれ違うのが大変そうだな。 - 橋のまわりの様子もずいぶん今と違うよ。松江市全体ではどのように変わってきているのかな。 3. 3つの時期(約100年前、約50年前、現在)の大橋川周辺の地図を見比べて、気付いたことを話し合う。 - 橋の数がだんだん増えているよ。宍道湖大橋やくにびき大橋ができたんだね。 - 昔と比べると、道路が増えてきたね。 - 道の幅のせまい道路が減って広い道路が増えてきているよ。 - 松江市の東や南に新しく道路ができてきているね。 - 道路ができたところには、建物も増えているね。 - 道路ができたり広くなったりしてバスが通れるようになったからバスの路線が増えていったのかもしれないね。 - 松江市の中心部のまわりに店や公共施設がたくさんできてきたから、そこに行けるようにするために道路や橋が増えたのかな。 - 交通の様子が変わったおかげで、いろいろなところに行けるようになったんだね。 4. 本時の学習を振り返る。 松江市は新しい橋や道路ができたり、道路が広くなったりして交通の様子がだんだん変わってきていると思いました。いろいろなところを通れるようになったから、今はバスの路線が増えたり、自動車が増えたりしてきたと思います。松江市の中心部のまわりにできた建物や公共施設にも行けるようになって、松江市に住む人の生活はとても便利になったと思います。	- 昭和初期の松江大橋の写真から、昔の交通の様子のイメージを広げ、現在との違いを考えながら、「他の場所や松江市全体ではどのようになっていたのだろう」という意識を高められるようにする。 - 気付きや考えを、前時までに作成してきた「土地利用」「公共施設」「人口や市域」をまとめた年表に書き込めるようにし、交通の様子の移り変わりを整理しながら捉えられるようにするとともに、他の視点とも関連付けて考えられるようにする。 - 様子の移り変わりを捉えにくい場合には、地図上の橋や道路を線でなぞるような言葉掛けをし、橋や道路の位置や道幅の変化に着目しやすくできるようにする。 「どうして交通の様子が変わったのかな。」「交通の様子が変わって何かよいことがあったのかな。」などと問い返すことで、交通以外の視点やバスの路線を関連付けながら、市の様子の移り変わりを捉えることができるようにする。 - 交通の様子の移り変わりについてわかったことや考えたことをふりかえるようにする。
評価【知識・技能】 交通の様子の時期による違いに着目して、写真や図を比較したり関連付けたりしながら、市の様子の移り変わりについて理解している。(発言・年表・ノート)	